

優秀賞

## 命を大切に生きる

沖縄県 那覇市立小緑中学校一年 高島 勇大

私は双子。脳に病気がある。お腹には大きな傷痕がある。皮ふはアトピーがあって治している途中。目は、悪くて見える範囲も狭い。手の指は丸くて短い指がある。私知っている自分の事はこんな感じ。中学校に入ったので、自分のことをもう少し知るために、作文にしてみることにした。自分が分かることはこれくらいなので、母に聞いてみることにした。母に聞くと、私は小さく生まれたそう。五百九十六グラム、もう一人は六百十四グラム。赤ちゃんの時の写真を見たら、たくさんの注射につながれて痛そうだった。小さく生まれたことで、色々なところがまだでき上がっていなくて、それが体に悪さをしたそう。生まれて二百九日入院し、三回の腸の手術、心ぞうの手術、目の手術をしたそう。先生には、

「生きられないかもしれない。」

と、言われていたらしい。それを聞いたらとても心

が苦しくなった。その時の写真を見ても、痛そうなお写真で見るのもつらい。でも母には、

「勇大を助けるために、先生たちは朝も昼も夜もがんばってくれてつないだ命だよ。」

と言われた。

目も全盲で、何も見えないだろうと言われたそう。でも今も病院には通っているけどバスケットできています。生まれた時に脳に少し傷がついてしまったから、言葉がうまく伝わらなかったり、少しマヒがあつて手や足もうまく動かなかつたり、少しマヒもある。今でもリハビリに通って、うまく自分で動けるように訓練している。一本の指が短くて、お母さんにいつになったら伸びるのか聞いたこともある。でも伸びないと言われた。保育器の中で事故にあつたそう。

みんなみたいにきれいな形にしたいけど、できないんだって。字はもっときれいに速く書きたいし、

ひも結びもできるようになりたいからいつも練習している。目も見えにくいから事故にあわないようにと右、左、右、左を見て確認するので、道を渡るのも一苦労だ。

できないことも多くて嫌になることもあるけど、うれしいこともある。例えば、バスケットで練習をしていたらシュートが入るようになった。他にも、くり返し練習していたら勉強も進んできた。

友だちがわからないところや、見えないもの、できないことは教えてくれたり、手伝ってくれたりすることもある。

今、この作文を書いてみて、たくさんの人に支えられて生きていくことを知った。お父さんやお母さんや家族、病院やリハビリの先生たち、学校の先生や友達など、みんなに支えられている。

みんなにつないでもらった大切な命、ありがとうの気持ちを持って、これからは毎日ががんばっていき

